

【京一・小児科コース】

診療科名：小児科

研修期間：3年

1. 研修コースについて

(1) 目的

未熟児・新生児から思春期までを対象とする幅広い小児医療を適切に、また、責任を持って行うための臨床的技術・知識・態度を習得し、将来小児科医として社会に貢献できる資質を身につけることを目的とする。

(2) 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

- 1) 成長・発達を特徴とする小児の生理的特性を理解できる。
- 2) 未熟児・新生児期から思春期までの幅広い年齢層において、正確に病歴を取ること、身体所見を取ることが出来、処置・治療が必要となる異常を的確に指摘できる。
- 3) 小児期の様々な疾患に対して、病態を理解したうえで、最新の知見を踏まえた適切な治療を速やかに行うことが出来る。
- 4) 小児に多い急性疾患、救急疾患のみならず、慢性疾患の適切な管理が出来る。
- 5) 地域医療に貢献できる。
- 6) チーム医療の重要性を理解し、医師のみならず、多職種の医療関係者と良好な関係を築くことが出来る。
- 7) 家族の心情に配慮しつつ、患者・家族と良好な信頼関係を築くことが出来る。
- 8) 経験した症例などを積極的に学会・研究会で発表し、また今後の日本の小児医療のために重要と考えられる知見については学術誌などに投稿する。
- 9) 常に臨床の中から問題点、疑問点を見つけ探求するリサーチマインドを持つことが出来る。

(3) 赤十字としての特色

ア. 救急医療

当院は、厚生労働省の救命救急センターに指定されており、豊富な症例に基づいた救急医療を実践できる。また、当院は、京都府の総合周産期母子医療センターの指定を受けており、ドクターカーによる新生児搬送も行っている。他医療機関で出生した病的新生児を当院ドクターカーにて迎えに行き、当院あるいは適切な施設へ搬送する業務であるが、上級医とともに新生児の救急処置・搬送業務に

従事することが出来る。

なお、このプログラムは、京都第二赤十字病院小児科、舞鶴赤十字病院と蜜に連携することにより、京都府支部全体として赤十字精神に基づく小児科医を多数育てることが出来ることに特色があると考えられる。

イ. 災害医療

日本赤十字社京都府支部等主催の災害医療研修に参加すると共に常備救護班に登録し、災害発生時の救援に備える。

ウ. 国際救援

常に日本赤十字社の職員であることを自覚し、要請に応じて国際救援に参加できるように必要最小限の語学力を身につけ出動に備える。

(4) 協力医療施設名

- ・ 京都第二赤十字病院 小児科
- ・ 舞鶴赤十字病院
- ・ 京都市立病院 小児科
- ・ 京都府立医科大学 小児科
- ・ 京都府立医科大学 小児内科

2. 取得資格(各学会による認定等)

- ・ 日本小児科学会専門医

3. 協力施設の役割

(1) 京都第二赤十字病院小児科

併設の京都市事故防止センターでの研修を行い、小児での死因の大きな原因になっている不慮の事故に対する知見を深め、事故防止につき親を指導できる知識を身につける。

(2) 舞鶴赤十字病院

今まで身につけた知識・技量を元に、地域医療に接することにより、その重要性を学ぶ。

(3) 京都市立病院小児科

小児の骨髄移植について学ぶ。

(4) 京都府立医科大学小児科

小児血液・悪性腫瘍の化学療法を学び、その分野での見識を深める。

(5) 京都府立医科大学小児内科

先天性心疾患の血管造影、カテーテル検査に従事するとともに、治療の詳細を学ぶ。